



あいかわ



農業委員会だより

第83号

令和5年8月15日発行

発行：愛川町農業委員会

編集：あいかわ農業委員会だより

編集委員会

愛川町角田251-1

電話046-285-2111(代)



果房整形直後のシャインマスカット 8月下旬が食べごろです！！（角田：富士ブドウ園にて）

紙面紹介

2面

農業委員会のごき・注意！マダニ対策と熱中症予防！！

3面

農福連携について・もったいない！から始まった乾燥野菜プロジェクトについて

4面

新規就農者の紹介（宮川良太さん）・農地募集・活動協力金のお礼・農業者年金

日頃から農業委員会に対し、深いご理解とご協力を賜り、心より感謝いたします。

ご好評いただいております「あいかわ準農家制度」につきましては、40名を超える準農家の方のほとんどが、耕作をしている貸出農地の契約期間を更新し、耕作を^{たしな}ずんでおられます。これもひとえに、快く農地をお貸しいただいている皆様のおかげであります。お心遣い心より感謝申し上げます。

さて、令和5年5月8日より、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、様々な行事が数年ぶりに開催されるというニュースを目にするようになり、社会全体がコロナ禍からの脱却に向かっていくように感じます。

農業委員会といたしましても、中止してまいりました「農業関係者との座談会」の開催を予定するなど、引き続き「農地利用の最適化の推進」のため、農業委員と農地利用最適化推進委員が連携して活動してまいりますので、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

農業委員会のうごき

農地等利用最適化の推進に関する県への意見・要望



農業委員会は、「農地等利用最適化の推進及び農林業施策・予算に関する意見・要望」を、県に行っております。

本年度も令和6年度に向け、県への意見・要望を提出しました。主なものは次のとおりです。

1 土地（農地）利用規制の見直しについて

◆「農地造成」について、農地法の審査基準に土壌分析に関する項目の追加等について検討を行うこと

2 県独自の特産品普及対策について

◆神奈川県オリジナルのイチゴ品種「かなこまち」の普及促進をすること

3 新規農業参入希望者の就農促進と支援について

◆新規就農者育成総合対策（経営開始資金）の支援額の増額と最長支援期間の延長について、国に働きかけること

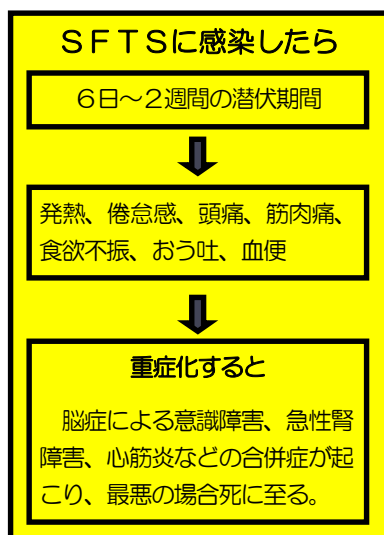
4 転用等の法令及び指導体制の見直しについて

◆転用後における雑種地利用の法令整備及び指導体制づくりについて、国に働きかけること

5 所有者不在農地の荒廃対策について

◆所有者不在農地に耕作希望者が現れるまで、耕作可能な農地として農地中間管理機構が直接維持管理できるように仕組み作りについて、国に働きかけること

注意！マダニ（SFTS）対策と熱中症予防！！



農作業時は、長袖や長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なくすること。また、刺された場合、マダニを無理に抜くと口吻（こうふん）の一部が体内に残り、化膿したり感染リスクが高まることから、注意が必要です。

一方、防護すればするほど、熱中症になるリスクが高まることから、ファン付き作業着や冷感タオルなどを身に着け、熱中症予防とマダニ対策を両立させる必要があります。

マダニが媒介する重症熱性血小板減少症候群（SFTS）ウイルスの感染が西日本から東日本に広がる中、農作業中の感染が半数以上となっています。



国立感染症研究所ホームページより

農福連携について

農福連携とは、障害者等が農業分野で活躍することを通じて、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組です。

農福連携に取り組むことで、障害者等の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながる可能性もあります。

農業と福祉（障害者）の連携という狭い意味で捉えがちな農福連携ですが、農業には農林水産業や6次産業などがあり、福祉には障害者だけでなく、高齢者、生活困窮者、触法障害者など社会的に生きづらさがある多様な人々が包摂されます。

2019年6月に国が発信した農福連携等推進ビジョンでは、「農福連携を、農業分野における障害者の活躍促進の取組にとどまらず、ユニバーサルな取組として、農業だけでなく様々な産業に分野を広げるとともに、高齢者、生活困窮者、ひきこもりの状態にある者等の就労・社会参画支援、犯罪・非行をした者の立ち直り支援等にも対象を広げ、捉え直すことも重要である。」と明記されました。

本町におきましても、企業参入により令和3年4月にオープンした障害者農園や、障害者の方が規格外の野菜などを細断、乾燥から袋詰めまでの作業を行った乾燥野菜の製品化が農福連携で実現しています。



生産者の田村さんと
ありんこ作業所の作業員さん

もったいない！から始まった乾燥野菜プロジェクトについて

生産者のわんぱく自然農園たむそんの田村吾郎さん（農業委員）

おいしいのに販売する事が出来ないキャベツの外葉やハイシーズンに過度に収穫される野菜たち。もったいない！何とかできないか？そんな悩みを解決する素晴らしいプロジェクトが動き始めました。

町内の福祉施設ありんこ作業所が、本来廃棄処分となる野菜を使用して乾燥野菜を製造してくれることになり、愛川町が実現化に向けてサポートをしていただき農福官連携で乾燥野菜の商品化が実現化しました。

乾燥野菜研究家の澤井香予さんに助言を頂き、愛川町協力のもと、乾燥野菜の作成方法、保健所の認可取得に向けての施設の改修や微生物検査等のいくつかの関門を通過して商品化が2年の歳月を経て実現しました。

商品化の第一弾は菊芋チップと長ネギチップです。どちらもそのままポリポリとおやつ感覚で食べることもでき、美味しい出来栄です。

乾燥野菜ならではの野菜の旨味・栄養がギュッと詰まっています、料理時間の短縮も出来、一石二鳥です。

おまけに食品ロスが削減でき、SDGsに繋がります。まずはこ賞味下さい。

「卵菓屋」、社会福祉協議会の売店である「希望（のぞみ）」にて販売しています。



長ネギチップ（左）と菊芋チップ（右）

まちかどいぽーと

新規就農者の紹介（宮川良太さん）

昨年度、新規就農者に認定され、三増地区で就農された宮川良太さん（42歳）を紹介します。

宮川さんは、生花店で15年ほどお勤めされましたが、花を販売するうちに「売る側」ではなく、「生産する側」に興味を持ち、野菜栽培の研修を受けるために、町内のわんぱく自然農園たむそんで研修したのがきっかけで、愛川町での就農を決めたそうです。

現在は有機栽培により、コマツナ、ダイコン、キュウリ、ネギ、ジャガイモなどいろいろな品種を育てているそうです。

今後の農業経営の展望については、「愛川町で育った新鮮な野菜を現地販売とネット販売を活用して広めていき、将来的に少量多品種の野菜セットの一般家庭向けの宅配を行っていきたい。」とのことでした。

これからの活躍を期待しております。



農政活動協力金のお礼

年末年始、ご自宅を訪問し、農政活動協力金のご協力をお願いいたしましたところ、565件、339,000円の募金をいただきました。

この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

今年も農政活動協力金の募金にご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

農地募集PR

農地の管理にお困りではないですか？

ご利用されていない農地や、今後の耕作予定がない農地は、新規就農者やあいかわ準農家が大切に耕作いたしますので、貸出にご協力ください。

お問い合わせ先は 農業委員会事務局

電話046-285-2111内線3542

農業者年金PR

①国民年金第1号被保険者である

農業者なら誰でも入れる終身年金！

②一定の要件を満たす方には、月額最大

1万円の保険料の国庫補助！

③保険料は全額社会保険料控除の対象！

知って得する農業者年金！

委員	委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長	編集委員
萩原	齋藤	諏訪部	加藤	落合	五月女	薄	
英治	増雄	衛人	一男	貢	智一	秀一	